

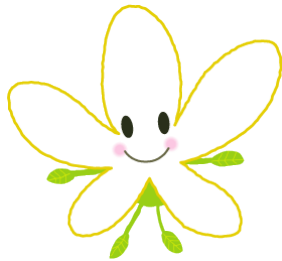


第4期青葉区地域福祉保健計画

計画期間 令和3年度～7年度

青葉かがやく 生き生きプラン

素案



青葉区
マスコットキャラクター
なしかちゃん



青葉区社会福祉協議会
マスコットキャラクター
あおばちゃん

青葉かがやく生き生きプラン（第4期青葉区地域福祉保健計画）とは・・・

お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまちづくりを、
地域の皆さんと共に進める計画です。

令和3年2月

横浜市青葉区役所

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

目次

| | |
|----------------------|----|
| 第1章 地域福祉保健計画について | 1 |
| 第1節 地域福祉保健計画とは | 1 |
| 第2節 計画の必要性 | 1 |
| 第3節 計画の構成 | 1 |
| 第4節 計画の期間 | 1 |
| 第5節 青葉区地域福祉保健計画の位置づけ | 2 |
| 第6節 地域福祉活動計画との一体化 | 2 |
| 第2章 青葉区の状況について | 3 |
| 第1節 統計データから見た青葉区 | 3 |
| 第3章 第4期計画について | 8 |
| 第1節 計画策定に向けた流れ | 8 |
| 第2節 計画の考え方 | 10 |
| 第3節 区計画 | 11 |
| 今後のスケジュール | 19 |
| 参考資料 | 20 |
| 団体別アンケート及びグループインタビュー | 20 |
| 地区別計画について | 22 |
| おわりに | 32 |

第1章 地域福祉保健計画について

第1節 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざし、住民、事業者、公的機関（行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が地域の課題解決に協働して取り組み、「頼み、頼まれる」身近な支えあいの仕組みづくりを進めることを目的として、策定・推進する計画です。¹

青葉区では、「**青葉区地域福祉保健計画（青葉かがやく生き生きプラン）**」として、平成17年に策定した第1期計画から今日まで、さまざまな取組を地域の皆さんとともに進めてきました。

第2節 計画の必要性

近年、地域を取り巻く状況は大きく変化しています。少子高齢化、核家族化による家族形態の変化、人々の価値観や生活スタイルの多様化等により、住民同士のつながりが希薄になっていると感じる人も多くなってきています。また、「団塊の世代²」が75歳以上となる令和7年（2025年）には、青葉区においても、約4人に1人が高齢者であると予想されており、支援を必要とする人が増えていくと考えられます。

これからも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、声かけや見守り、ちょっとしたお手伝いなどができる、地域のつながりや支えあいの意識を強めていく必要があります。

- ★地域の皆さんがつながると・・・介護、子育て、健康づくり、災害時などいろいろな場面で力を発揮し、地域の課題を皆さんで解決していくことができます！
- ★地域福祉保健計画は・・・地域の皆さんが、「自分の住んでいる地域がこうなるといいな」ということを、みんなで一緒に考え、進めていく計画です！

第3節 計画の構成

青葉区地域福祉保健計画は、「**区計画**」及び「**地区別計画**」から構成されています。

「区計画」は、地区別計画の支援と、区域全体での課題・ニーズに応じた取組を合わせて推進しています。

「地区別計画」は、より身近な地域の特性に応じた課題に対応するため、15の地区連合町内会ごとに計画を策定・推進しています。

第4節 計画の期間

青葉かがやく生き生きプランは、これまでに第1期～第3期計画を策定してきました。第4期計画は、令和3年度から7年度までの5年間を対象とします。

¹平成12年に社会福祉法が改正され、総合的な地域福祉の推進が大きな柱として打ち出されました。この中で、「地域福祉計画」は地域住民や事業者等福祉保健活動を行うあらゆる人・団体を主人公に、意見を反映させながら策定し、推進することとされています。横浜市では、福祉と保健の取組を一体的に推進していくために、計画を「地域福祉保健計画」としました。

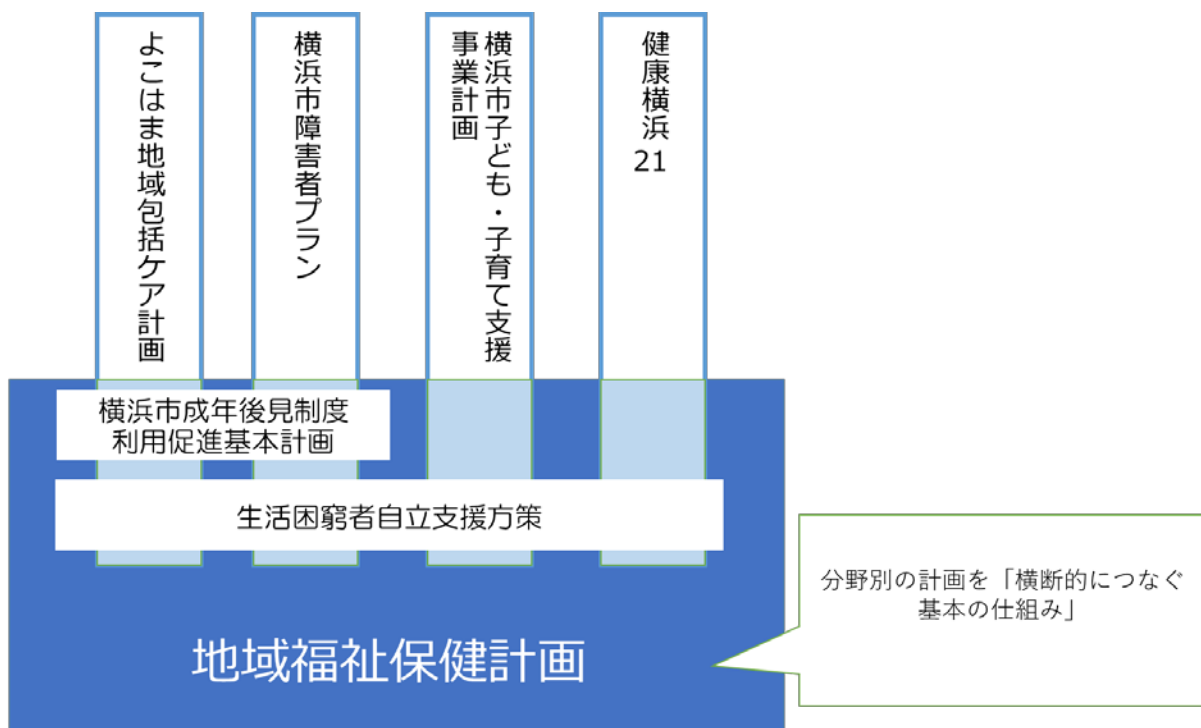
²昭和22年（1947年）～24年（1949年）生まれの世代

第5節 青葉区地域福祉保健計画の位置づけ

社会福祉法の下、横浜市では区ごとの特性に応じた 18 区の区地域福祉保健計画と、それを支援する市計画「よこはま笑顔プラン」を策定し、推進しています。

また、横浜市には、高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画がありますが、地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を“**地域**”の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

青葉区では、市計画を踏まえ、区の特徴やニーズに基づいて、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現をめざし、青葉区地域福祉保健計画を策定・推進しています。



第6節 地域福祉活動計画との一体化

社会福祉協議会は、1980 年代後半から地域福祉活動を推進するために地域の皆さんや福祉施設・団体の人々と協働して、「地域福祉活動計画」を作成し、この計画に基づいて地域福祉活動を進めてきました。

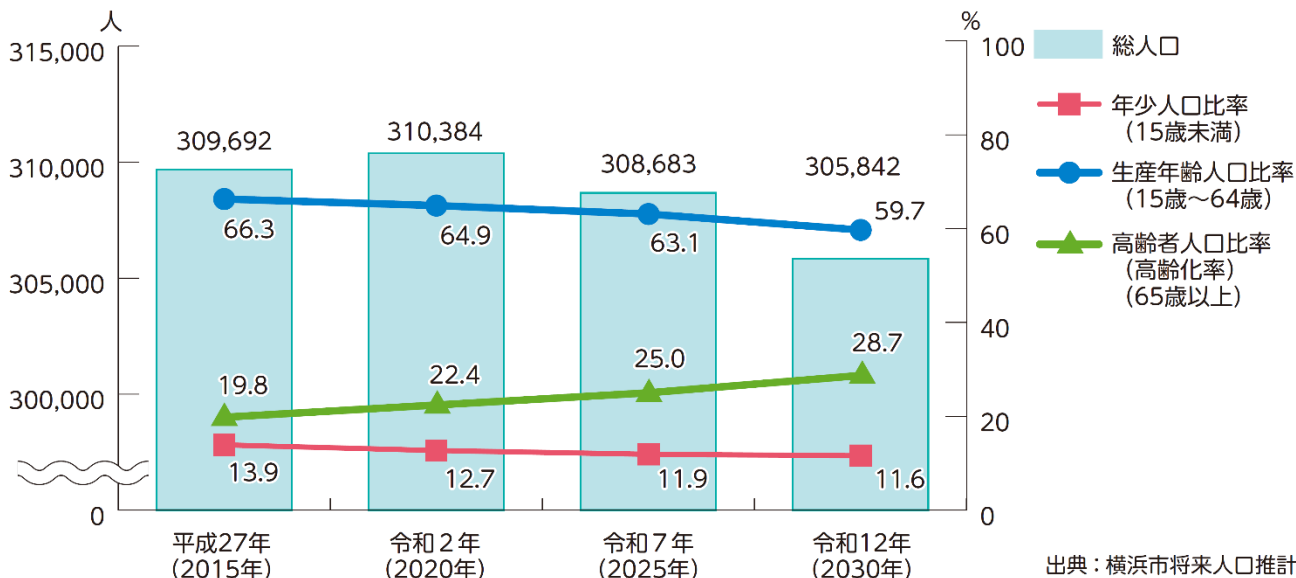
青葉区社会福祉協議会（区社協）も、平成6年の分区と同時に設立され、平成8年から「青葉区地域福祉活動計画（青葉やまぶきプラン）」を掲げ活動してきました。

区役所の「青葉区地域福祉保健計画」と、区社協の「青葉区地域福祉活動計画」は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担し総合的に進めるため、第2期計画から一体的に策定・推進を行っています。

第2章 青葉区の状況について

第1節 統計データから見た青葉区

○ 青葉区の人口の推移・推計



※この将来人口推計は、平成27年国勢調査における人口を基準として推計していますので、実際の数値と異なる場合があります。

「横浜市将来人口推計（平成27年時点）」によると、青葉区の総人口は令和2年をピークに減少に転じるとされています。当初の予測に比べるとピークは後ろ倒しになっていますが、今後確実に減少していくとされています。また、高齢化率は令和7年には25.0%に達し、さらに超高齢社会(※)が進むと推計されています。

比較的若い区であるといわれる青葉区でも確実に高齢化は進んでおり、今後「団塊の世代」が80歳を迎える令和12年にはさらに高齢化は進むと推計されています。

※ 高齢化社会：高齢化率7%～、高齢社会：高齢化率14%～、超高齢社会：高齢化率21%～

○青葉区の年少人口と年少人口比率（15歳未満）【令和2年1月時点】

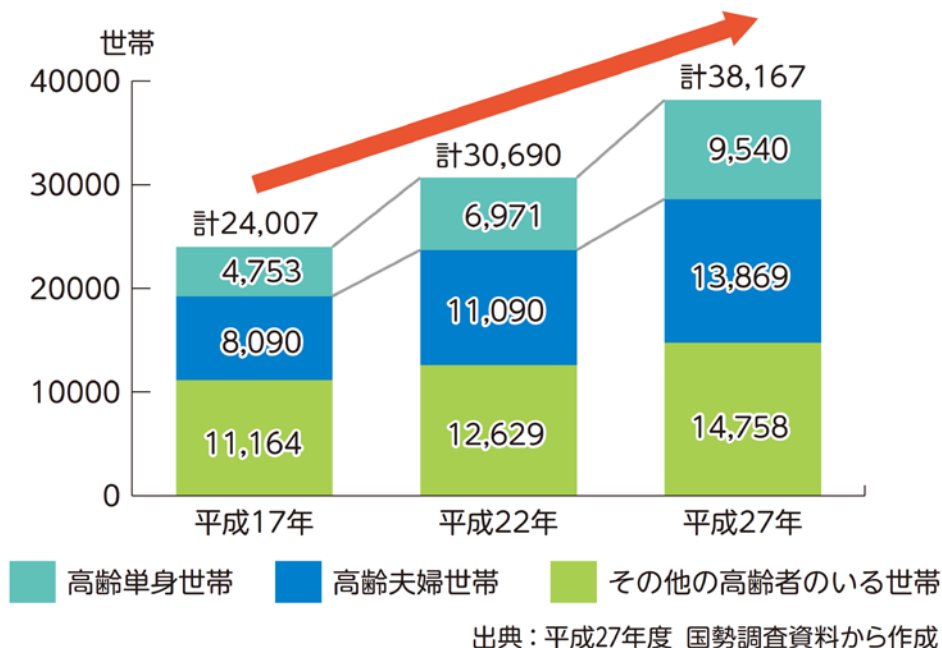
| | 15歳未満（全体） | | 0歳～5歳 | | 6歳～14歳 | |
|-----|---------------|-------|---------|------|---------|------|
| | 総数 | 比率 | 総数 | 比率 | 総数 | 比率 |
| 青葉区 | 39,400 | 12.7% | 14,283 | 4.6% | 25,117 | 8.1% |
| 横浜市 | 446,873 | 11.9% | 170,297 | 4.5% | 276,576 | 7.4% |

出典：横浜市統計ポータルサイト

令和2年1月時点で、青葉区の年少人口（15歳未満）は市内18区中2位、年少人口比率は3位となっており、青葉区は横浜市内でも子どもの多い区です。

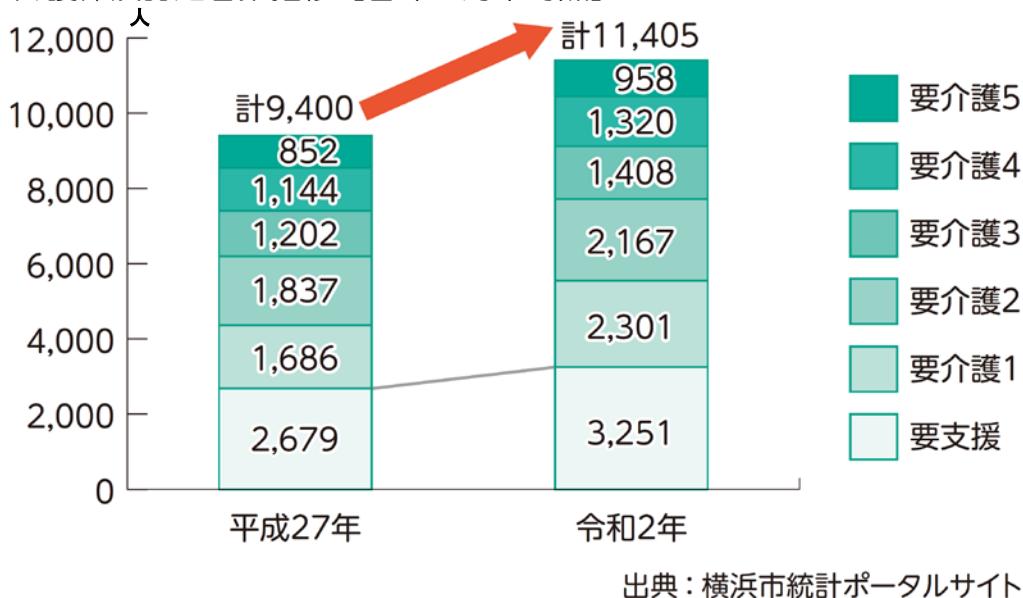
しかし、年少人口は、平成27年の約4万3千人から令和2年の約3万9千人へと減少しており、青葉区においても子どもが減少し始めていることがわかります。

○青葉区の高齢者世帯の内訳と推移



平成 27 年の国勢調査によると青葉区における高齢者世帯（65 歳以上の高齢者のいる世帯）は約 3 万 8 千世帯で、青葉区の世帯数約 12 万世帯の約 30%を占めています。また、高齢単身世帯でみると、平成 17 年の 4,753 世帯から平成 27 年には 9,540 世帯となっており、10 年間で約 2 倍増加しています。
 今後の高齢化に伴い、高齢単身世帯はますます増加することが予想されます。

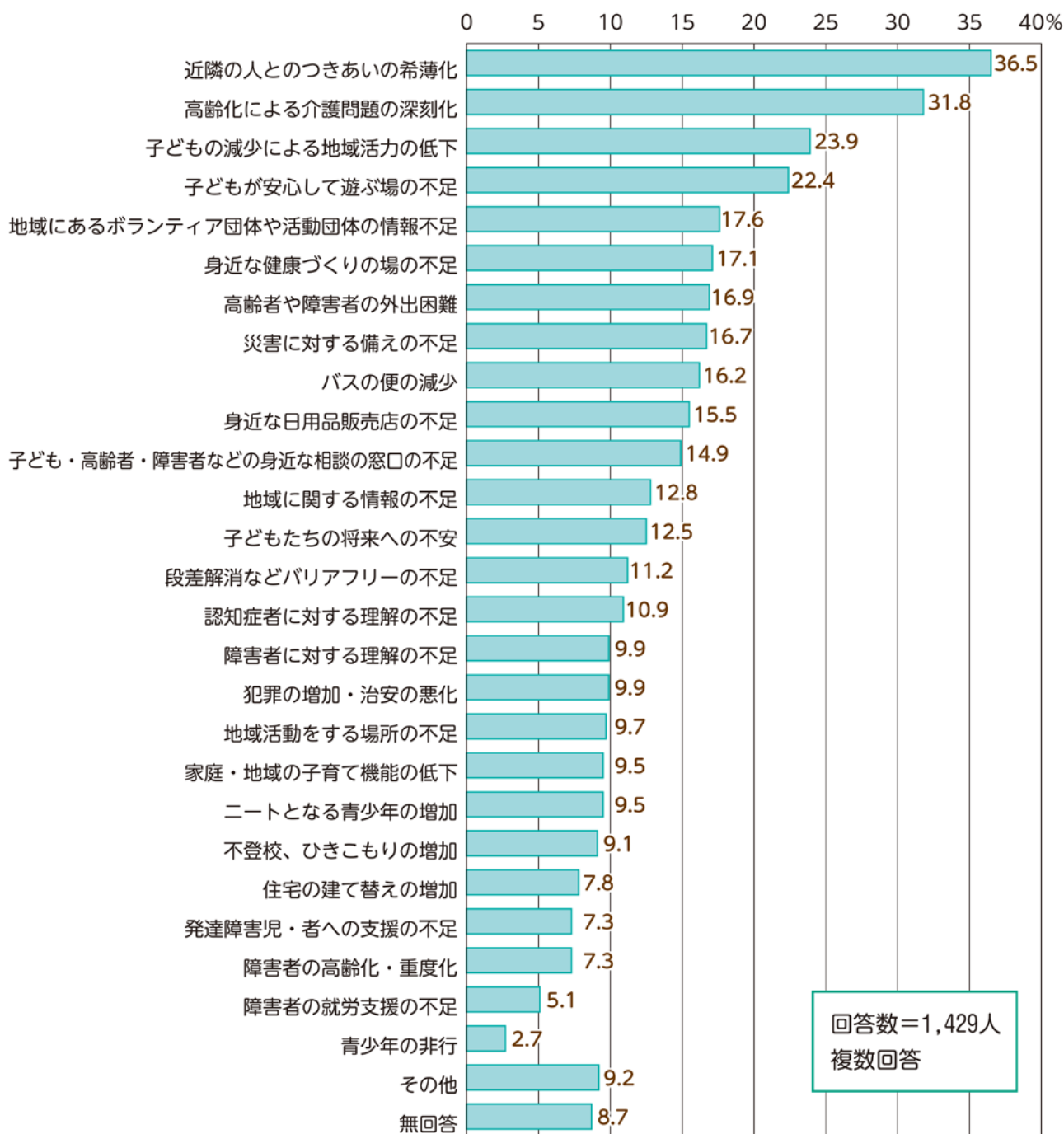
○青葉区の介護保険認定者数推移【各年3月末時点】



令和 2 年 3 月末時点で、青葉区において、何らかの疾病や心身の障害等により介護保険の要支援・要介護認定を受けている人は約 2 割増加し、11,405 人となっています。
 介護保険認定者数は増加傾向にあり、今後高齢者が増えることが予想される中で、少しでも長く健康に暮らせるよう、取り組んでいくことが必要です。

第2節 青葉区区民意識調査からみた青葉区

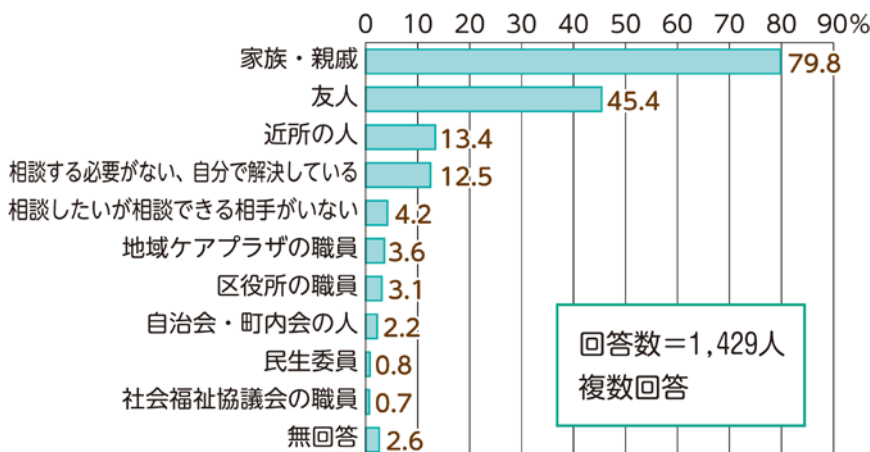
○「あなたの住んでいる地域には、現在どのような課題や問題があると思いますか」



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「近隣の人とのつきあいの希薄化」(36.5%)が最も多く、次いで「高齢化による介護問題の深刻化」(31.8%)、「子どもの減少による地域活力の低下」(23.9%)、「子どもが安心して遊ぶ場の不足」(22.4%)と続いています。

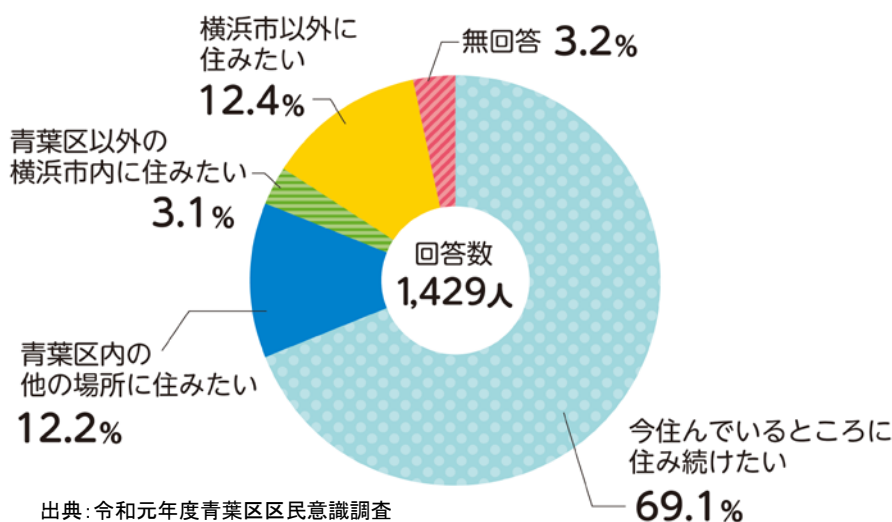
○「日常生活のうえで、困ったときに、誰に相談していますか」



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「家族・親戚」(79.8%)が8割と最も多く、次いで「友人」(45.4%)が半数近くを占めています。以下、「近所の人」(13.4%)、「相談する必要がある、自分で解決している」(12.5%)、「相談したいが相談できる相手がない」(4.2%)と続いています。

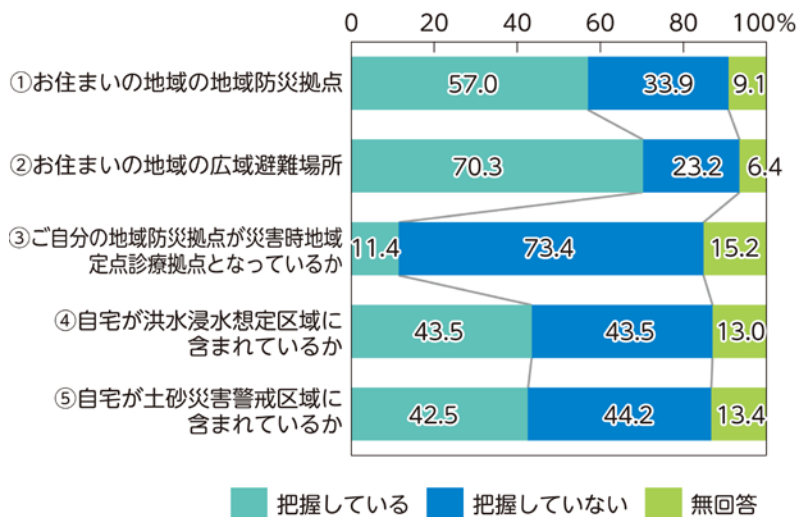
○「あなたは、今住んでいるところに住み続けたいと思いますか」



出典：令和元年度青葉区区民意識調査

「今住んでいるところに住み続けたい」(69.1%)が約7割と最も多く、「青葉区内の他の場所に住みたい」(12.2%)と合わせると、青葉区内に住み続けたい人が8割を超えています。

○「地震・風水害等の災害が起こった時のために、次の項目について把握していますか」

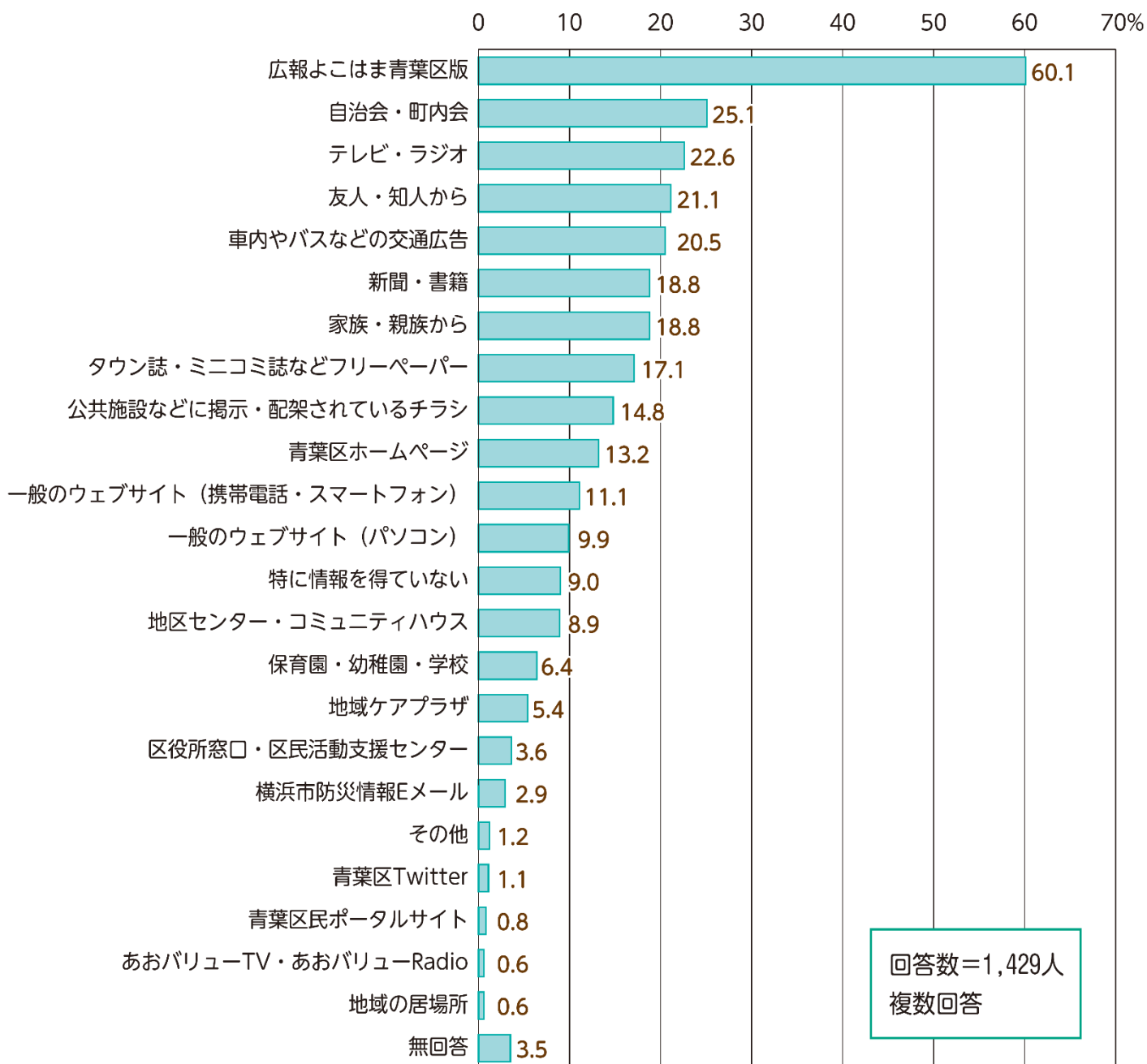


出典：令和元年度青葉区区民意識調査

①地域防災拠点について「把握している」は57.0%、「把握していない」が33.9%となっています。②広域避難場所については「把握している」が70.3%、「把握していない」が23.2%となっています。

第4期青葉区地域福祉保健計画【素案】

○「あなたは、普段区内のさまざまな情報（区からのお知らせ、イベント、子育てに関する情報、災害の情報など）をどのように収集していますか」



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査

「広報よこはま青葉区版」(60.1%)が最も多く6割を占めています。次いで「自治会・町内会」(25.1%)、「テレビ・ラジオ」(22.6%)、「友人・知人」(21.1%)、「車内やバスなどの交通広告」(20.5%)と続いています。

第3章 第4期計画について

第1節 計画策定に向けた流れ

(1) 計画策定の流れ

第4期計画区計画策定にあたり、第3期計画の取組の振り返りを行うとともに、区民の皆さんのニーズを反映していくため、「区民意識調査」、15の地区連合町内会エリアで実施した「地区別推進会議」、「地区社会福祉協議会」における意見交換や、民生委員児童委員・主任児童委員・子育て支援者・PTA・障害当事者団体への「アンケート及びグループインタビュー」を実施しました。また、区内の中学生と意見交換を実施しました。

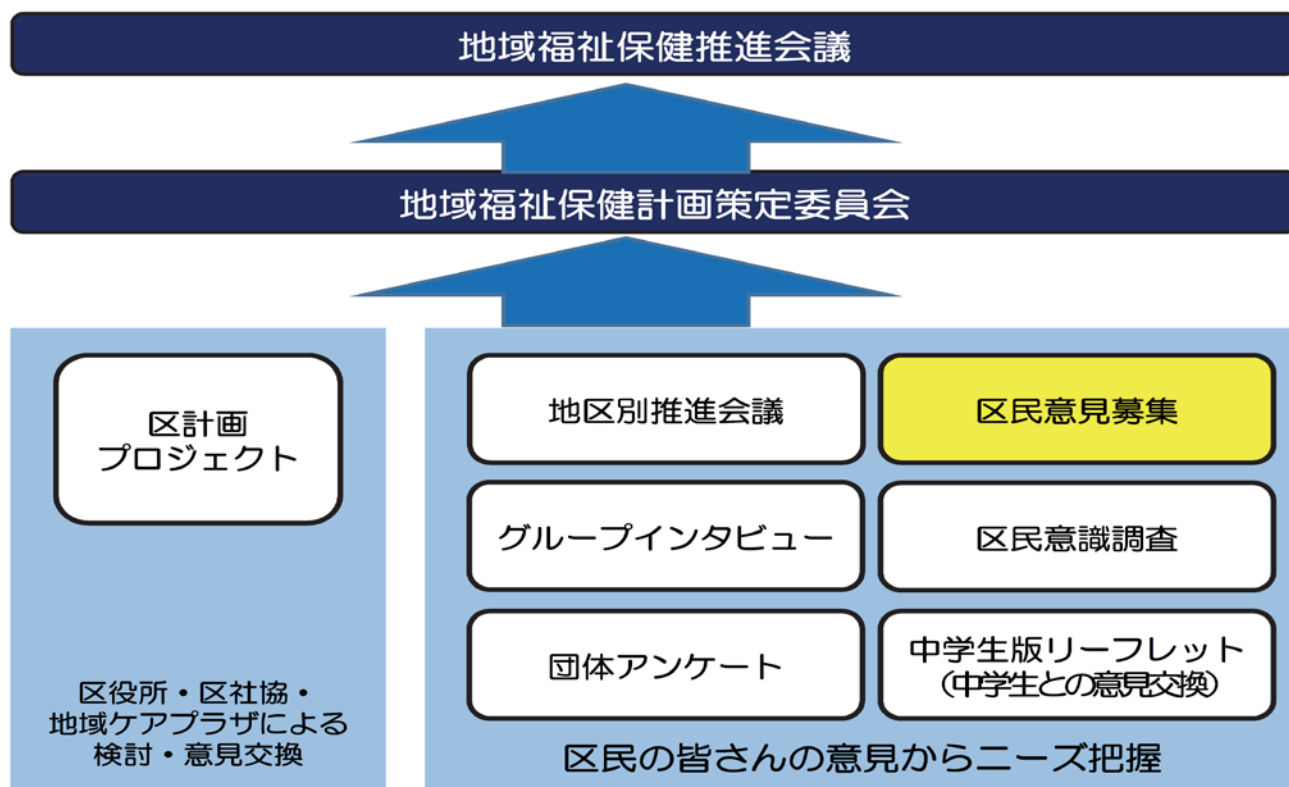
それらから出された課題・ニーズを基に、区役所・区社協・地域ケアプラザによる区計画プロジェクトにて検討し、区民や地域活動団体代表、学識経験者等で構成する「**地域福祉保健計画策定委員会**」にて、第3期計画の振り返りや第4期計画に向けた課題等の整理を行いました。

今後、区民意見募集の結果を踏まえ、「地域福祉保健計画策定委員会」、青葉区における福祉保健事業の推進について幅広く協議する場である「**地域福祉保健推進会議**」において、計画案を検討・確認し、第4期計画を策定します。

地区別計画については、地区ごとに地区別推進会議や地区社会福祉協議会が中心となり、第3期地区別計画の振り返りや、今後に向けた課題などについて、意見交換が行われています。

「自分たちの地域がこうなるといいな」「そのためにはこんな活動があったらいいな」という地域の皆さんの思いを盛り込み、第4期地区別計画を策定します。

計画策定の流れ



(2) 振り返り・意見から見えてきた青葉区の共通テーマ

第3期計画（平成28年度～令和2年度）の振り返り

| | | |
|---|---|---|
| <p>地区社会福祉協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で住民同士、顔の見える関係がつかれるようにしていきたい。 ・住民の困りごとを把握し、助け合いを進めていきたい。 | <p>民生委員・児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、誰もが集える場が増えるとよい。 ・地域で見守りの目を増やしていくには、助け合い活動、情報共有や交流の場、挨拶や声かけ等の取組が増えるとよい。 | <p>主任児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、子どもも参加できる場が増えるとよい。 ・地域のつながりづくりのためには、一人ひとりがあいさつや声かけを積極的にできるとよい。 |
| <p>PTA（小学校・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりづくりに向けて、PTAでは子どもたちと住民が関われるイベントを企画することができる。 ・学校、地域、家庭がつながり、子どもたちが見守られながら育つことが大事。 | <p>障害関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害がある人は、地域や社会とのつながりが薄い傾向にある。 ・5年後には、障害に対する理解が広まるとよい。住民と交流し、障害について多くの人に知ってもらふ機会が必要。 ・回覧板等で相談窓口（区役所等）を積極的に周知してほしい。 | <p>中学生との意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加して、地域の人と関わりたい。 ・地域清掃などでいろいろな方と交流し、楽しく話す機会を増やすといいと思う。 ・地域の活動の情報を分かりやすくして欲しい。 |
| <p>区計画プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族（世帯）全体で課題があり、複合的な支援が必要なことが多い。 ・健康意識が高いので、それを生かした健康づくりを進めていきたい。 ・年齢を問わず力のある人が多く、一歩踏み出せば活躍ができる。 ・多様性のある活動の場があるとよい。 ・誰でも気軽に相談できる窓口や気軽に集まれる場が増えていくとよい。 | <p>地区別推進会議等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りになることで、日頃の活動のお願いができたらいざという時に頼れる。 ・日頃から地域全体で災害時に備えた仕組みづくりをしておくことが必要。 ・担い手と受け手の垣根を取り、誰もが地域活動に参加していけるといい。 ・学校や親と一緒に、子どもがこれからも地域とつながる経験をつくっていけるとよい。 ・地域活動の情報発信の工夫が必要。 | <p>策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い方のボランティア育成や元気なシニア世代をどう引き込むかを考えていく必要がある。 ・支援を受ける人も貢献できる機会があるとよい。 ・一人ではなくチームで支援していくことが必要。 ・妊娠期から18歳までの子どもをみていく仕組みがあるとよい。 ・民間事業者も交えての地域づくりが進んでいる。さらに企業やNPO、学校と幅広く連携する仕組みをどうするかが課題。 ・情報が「届けたいターゲット」に届かないのが問題。届くような仕組みが必要。 |

分野にまたがるキーワードが見えてきたことで、分野を越えた課題解決につなげるため、共通のテーマを「計画の柱」として掲げます。

柱①
相互理解
支え合い

柱②
生き生き
すこやか

柱③
場・機会・情
報の充実

第2節 計画の考え方

(1) 計画の構成

第3期計画の振り返りを踏まえ、第4期計画（令和3年度～7年度）についても「理念・目標」は地域福祉保健計画のめざすべき基本姿勢であることから、今後も継承していきます。

第3期計画での「視点1～6」については整理を行い、前頁の「振り返り・意見から見えてきた共通テーマ」をふまえて、第4期計画では取組の推進に必要な「3つの柱」として掲げています。

青葉区地域福祉保健計画は、区域全体に関わる取組内容である「区計画」と、地域それぞれの特性に合わせた「地区別計画」から構成されています。

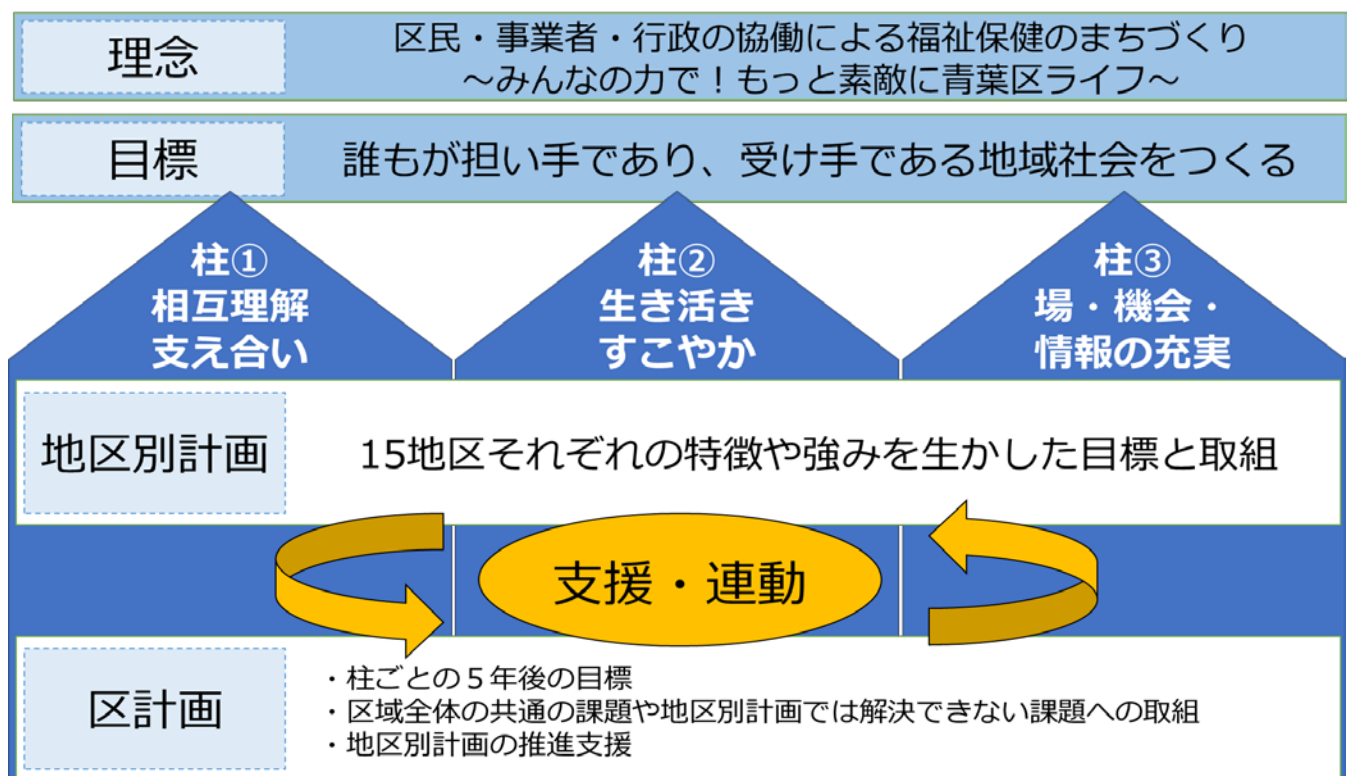
区計画

区域全体でのさまざまな課題やニーズに応じた取組と、地区別計画の推進支援を合わせて進めます。区域全体に関わる取組については「3つの柱」ごとに、5年間の計画期間でめざしたい青葉区の姿として位置づけています。また、地域住民、区役所、区社協、地域ケアプラザの取組内容をまとめています。

地区別計画

青葉区の多様な地域性を踏まえ、地域の特性や強みをいかし、地域課題にきめ細やかに対応していくため、15の地区連合町内会のエリアごとに地区別計画を策定し、地区それぞれの特徴や課題に応じた目標と取組をまとめています。また、「自分たちの地域がこうなるといいな」というまちの姿を「5年後にめざしたいまちの姿」として位置づけています。

第4期青葉区地域福祉保健計画「青葉かがやく生き生きプラン」【計画構成】



第3節 区計画

(1) 計画の推進体制

地域福祉保健推進会議

青葉区における福祉・保健・医療等の連携強化を図り、福祉保健サービスを充実させ円滑に実施することを目的に、区内の福祉・保健・医療等の各分野の代表者で構成される会議です。青葉区の福祉保健事業の推進について幅広く協議するとともに、地域福祉保健計画の推進・評価に関して意見交換を行っています。

地域福祉保健計画推進部会

計画の進捗管理及び振り返りの具体的な協議・検討の場として設置します。地域福祉保健計画推進部会は、実際に計画推進に携わっている各種団体・委嘱委員等の代表者で構成し、各地区別計画推進会議で進めている取組や課題となる事項等を共有するとともに、区域全体の取組や課題を検討します。また、計画推進の進捗状況について協議し、その内容を地域福祉保健推進会議へ報告します。

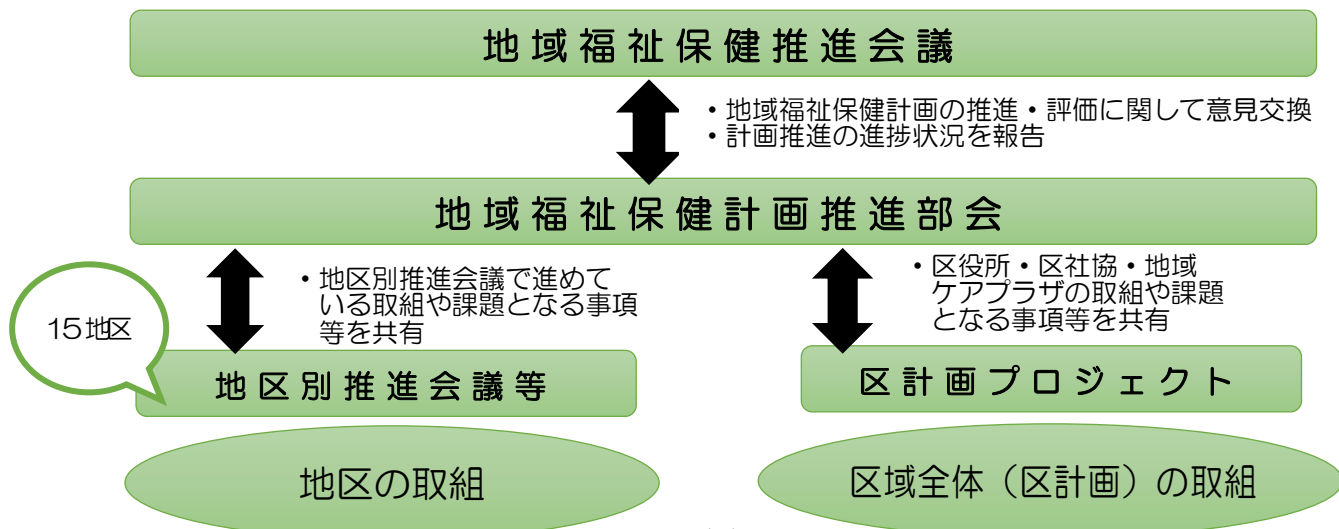
(2) 地域住民・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる計画の推進

青葉区地域福祉保健計画は、その“理念”である「区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり」のとおり、地域住民と区役所・区社協・地域ケアプラザが、それぞれの強みをいかしながら、協働して取り組む計画です。

計画の取組内容は、地域の皆さん一人ひとりが取り組めること、身近な地域での支えあいの中で取り組めること、そして事業者や公的機関（区役所・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が行う福祉保健サービスや公的支援であり、それらが適切に組み合わせることで、より大きな効果を生み出します。

それぞれの取組を進める人や団体等が青葉区地域福祉保健計画の主役であり、一人ひとりが主体的に取り組むことが、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現につながると考えます。

＜区計画の推進体制イメージ＞



(3)区計画

柱①

相互理解・支え合い



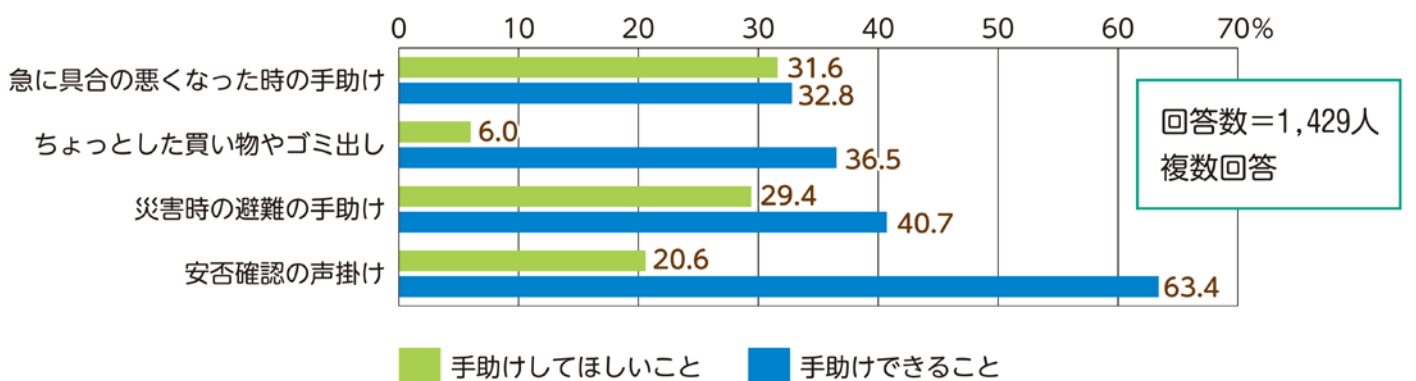
背景

住民同士の支え合い

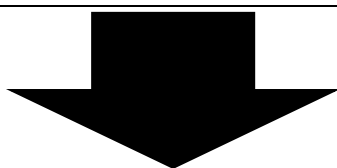
区民意識調査では、例えば「急に具合が悪くなった時」に、「手助けしてほしい」と回答した人と「手助けできる」と回答した人の割合がほぼ同じという結果になりました。また、「ちょっとした買い物やゴミ出し」や「安否確認の声掛け」など、「手助けしてほしい」と回答した人より「手助けできる」と回答した人の方が全体的に多いことがわかりました。

地域でも、自分から助けを求めることが苦手な人が多いという声があります。助けを求める人と手を差し伸べる人がうまくつながる仕組みをつくり、地域の中で支え合う関係をつくっていくことが求められています。いざという時に備えて、日頃からつながりを持つことが大切です。

● 少し困った時に手助けできること、ご近所から手助けてしてほしいこと（抜粋）



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 隣近所で声を掛け合い、お互いに支え合っている
- ◎ 障害や認知症など、暮らしにくさを感じている人への理解が深まり、暮らしやすくなっている
- ◎ 安心して子育てができ、子どもも暮らしやすくなっている
- ◎ 日頃の防災・減災の取組などを通して、災害時でも助け合っている

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①地域主体で子どもや高齢者の見守りを広げよう。
- ②一人ひとりの困り事を地域で一緒に考えよう。
- ③多様性を理解し合える地域にしよう。
- ④ちょっとしたことでも、悩んだ時は抱え込まずに相談しよう。
- ⑤防災訓練等を通じて、防災意識を高めよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①子どもから高齢者まであらゆる世代への見守りの輪を広げるための普及啓発や仕組みづくりを進めます。
例) 青葉ふれあい見守り事業、ひとり暮らし高齢者地域で見守り推進事業
- ②身近な地域における高齢者・障害者の権利擁護を推進します。
例) 成年後見等の普及啓発と利用支援、青葉区あんしんセンターの運営
- ③認知症への理解を深め、本人の意思が尊重されるよう地域で支える取組を推進します。
例) 認知症サポーター養成講座、認知症高齢者安心ネットワーク
- ④地域での様々な障害への理解を深めます。
例) 発達障害に関する講座や支援者向け研修、障害者週間キャンペーン
- ⑤子どもの頃から福祉を身近に捉えられるような教育・機会を増やします。
例) 福祉教育(小中学生のボランティア体験・育成)
- ⑥生活困窮に陥る前に支援機関の情報を提供できるよう、専門機関同士が連携・情報共有を行う仕組みづくりをします。
例) お悩みあれこれガイドブックの活用、食料支援
- ⑦複合的な課題を抱えた個人・世帯への、多機関による包括的な支援を充実します。
例) いわゆる「ごみ屋敷」対策、ユースプラザ出張相談
- ⑧児童虐待の予防及び早期対応のため、地域の理解をより深め、子どもや保護者を地域で見守る虐待防止の取組を進めます。
例) 児童虐待防止啓発、児童虐待防止連絡会
- ⑨青少年が地域に見守られながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組を推進します。
例) 青少年の居場所づくり、寄り添い型学習支援事業、こども食堂の支援
- ⑩妊娠・出産・育児・青少年期にわたる切れ目のない包括的な支援を充実します。
例) 子育て世代包括支援センター、産後うつ対策
- ⑪防災や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発します。
例) 防災・減災に関する啓発イベント、防災マップやハザードマップの周知
- ⑫災害時に手助けが必要な人(災害時要援護者)の情報共有や避難支援の仕組みづくりを地域とともに進め、あわせて災害時要援護者等への啓発も行います。
例) 青葉災害ネットの登録推進、福祉避難所等の訓練
- ⑬医療関係団体・医療機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組みます。
例) 地域定点診療拠点の整備・開設訓練、災害医療検討委員会

柱②

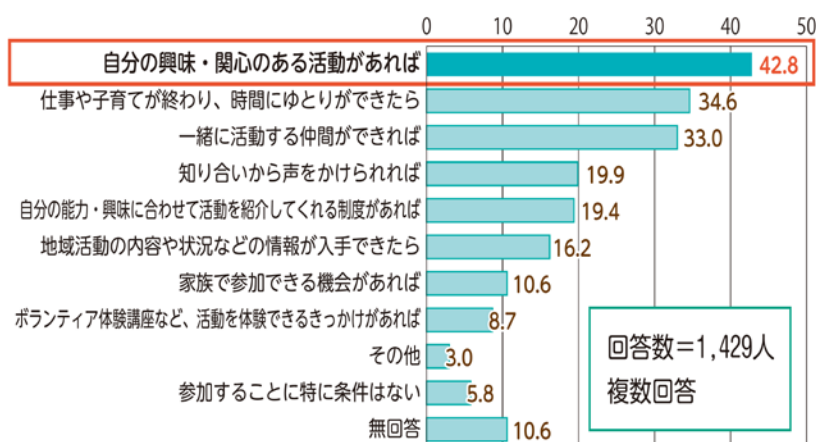
生き活き・すこやか



背景 地域活動への参加と継続

区民意識調査では、4割を超える区民が「自分の興味・関心がある活動があれば」地域活動に参加または継続すると回答しています。また高齢の方がラジオ体操の声かけ役を担ったり、障害当事者が福祉教育の講義を行ったりするなど、様々な区民が年齢や障害に関わらず活動しています。きっかけや条件を整えば活動に参加し継続する区民が多いと考えられます。

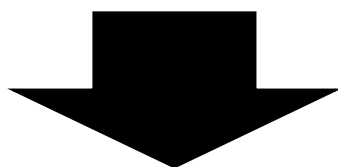
○地域等での活動に参加できる条件



○視覚に障害のある方が体験を伝える福祉教育



出典：令和元年度 青葉区区民意識調査



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 誰もが地域の中で自分らしく活躍している。
- ◎ 身近なところで健康づくりの機会が増え、楽しみながら活動が続けられている。
- ◎ 子どもから青少年、子育て世代が地域とつながっている。
- ◎ 地域の活動を支える人が増え、次の世代に受け継がれている。

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①元気なうちから地域とつながろう。
- ②声をかけあい、地域で活動する仲間を増やそう。
- ③健康づくりに関心を持ち、元気にすごせる生活習慣を心がけよう。
- ④スポーツや地域活動などを通じて、仲間づくり・健康づくりを進めよう。
- ⑤それぞれのできることをきっかけとして、誰もが活躍できる地域にしよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①地域活動の担い手と受け手がつながるようコーディネートします。
例) 学生ボランティアの支援、ボランティアセンター
- ②元気な高齢者が活躍できる場を広げていきます。
例) 老人クラブ等の活動支援、地域活動リスト
- ③認知症や障害の有無にかかわらず、地域で活躍できる取組を支援します。
例) ふれあいマルシェ、自立支援協議会
- ④身近な地域の中で健康づくりができる機会を増やし、地域の交流を深めます。
例) ウォーキングマップ等の普及啓発、元気づくりステーション
- ⑤健康寿命を延ばすために、医療関係団体、医療機関、教育機関等と連携し、生活習慣の見直しや重症化予防の取組をすすめます。
例) 特定健診・がん検診等の普及、食に関する取組、オーラルフレイル等の普及啓発
- ⑥こころの健康づくりの普及を進めます。
例) ゲートキーパーの育成、自殺予防研修
- ⑦学校等と連携し、子どもや保護者も地域活動に関心が持てるような取組を充実します。
例) 学校・家庭・地域連携、青葉かがやく生き生きプラン 中学生版リーフレット
- ⑧子どもや子育て世代が地域とつながるように交流の場などを支援します。
例) 親子の居場所づくり、多世代交流事業
- ⑨区役所、区社協、地域ケアプラザのネットワークを強化し、地域の活動が継続できるように支援します。
例) 地区サポートチーム会議、地域ケア会議
- ⑩地域活動へのきっかけづくりや人材育成を支援します。
例) みらいづくり大学、区民活動支援センター、地域での起業支援



柱③ 場・機会・情報の充実

| 背景 | 交流する場や機会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----|----|-------|----|-------|-----|------|--|----|----|------|-------|------------|-------|---------------|-------|-----|------|
| <p>区民意識調査では、「自宅以外に知り合いや友人と活動を行う場所や機会がありますか」という問いに対し、46%の方が「ある」、48%の方が「ない」と回答しています。また、「地域の中で知り合いや仲間をつくりたい」と回答している方が31%いることから、仲間づくりの場や機会を求めている方が多いことがわかりました。</p> <p>地域の中で「交流する場」と「参加のきっかけ」をつくり、仲間づくりを進めていくことが求められています。また、新しい生活様式においても、人と人がつながる場や機会が一層重要となっています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>○自宅以外に知り合いや友人と活動を行う場所や機会がありますか</p> | <p>○お住まいの地域の中で知り合いや仲間を作りしたいと思いますか。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>回答数 1,429人</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>46.5%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>48.2%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>5.2%</td></tr> </table> | 回答 | 割合 | ある | 46.5% | ない | 48.2% | 無回答 | 5.2% | <p>回答数 1,429人</p> <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>既にいる</td><td>34.4%</td></tr> <tr><td>つくってみたいと思う</td><td>31.1%</td></tr> <tr><td>特につくりたいとは思わない</td><td>27.6%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>6.9%</td></tr> </table> | 回答 | 割合 | 既にいる | 34.4% | つくってみたいと思う | 31.1% | 特につくりたいとは思わない | 27.6% | 無回答 | 6.9% |
| 回答 | 割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ある | 46.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ない | 48.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 無回答 | 5.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回答 | 割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 既にいる | 34.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| つくってみたいと思う | 31.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特につくりたいとは思わない | 27.6% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 無回答 | 6.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>出典：令和元年度 青葉区区民意識調査</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



【5年後に目指したい青葉区の姿】

- ◎ 多文化・多世代共生をめざし、地域で活動・交流できる場や機会、手段がある。
- ◎ 子育て世代、障害児・者、高齢者、暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークができている。
- ◎ 企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の連携ができている。
- ◎ 必要な人に必要な情報が届き、活用されている。

【取組】【地域の皆さんが取り組んでいけるとよいこと】

- ①誰もが気軽に地域活動に参加できる方法をつくっていこう。
- ②地域の関係団体が連携して、地域の課題解決を話し合おう。
- ③地域の資源や様々な手法を活用して、近隣のつながりを持てる機会をつくっていこう。
- ④多様な媒体や手段を取り入れた情報発信をしていこう。
- ⑤自分の地域や活動を見つめ直してみよう。

【取組】【区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組んでいくこと】

- ①地域での居場所づくりや相談する機会を充実します。
例) 親あるうちの講座、子育て支援相談会場
- ②障害児者、認知症、外国人等様々な方の交流を支援します。
例) ふれあい農園、国際交流ラウンジ、認知症カフェ
- ③地域の中でつながることができるような、交流の機会を増やします。
例) 施設利用団体懇談会、地域ケアプラザや自治会館等を活用したサロン
- ④暮らしにくさを感じている人などを支援するネットワークを充実します。
例) 子育て支援ネットワーク連絡会、セーフティーネット会議
- ⑤地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるように支援します。
例) 区民利用施設交流会、こどもの居場所づくり連絡会
- ⑥企業、NPO、教育機関、医療機関など、官・民・地域の情報共有やマッチングができるよう支援します。
例) プロボノ事業、事業における企業や学校等との連携
- ⑦在宅医療・介護の連携を推進します。
例) 医療介護連携ノート、意思決定支援研修
- ⑧必要な人に必要な情報が適確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して情報提供します。
例) 多様な媒体を活用した各種情報の提供、多様な機会を活用した周知
- ⑨障害児者や外国人等、情報が得にくい人に配慮した情報提供を充実します。
例) 多様な手段を活用したPR、青葉区移動情報センター

地域がつながり続けるための取組

「地域福祉保健計画」は、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域でのつながりと支え合いを大切にしてきました。

新しい生活様式においても地域がつながり続けられるよう取り組んでいきます。

柱①
相互理解・支え合い

柱③
場・機会・情報

「少人数で集まる機会を増やす」

多くの人が集まると密になるため、人数を制限して少人数で集まり、集まる回数を増やすことで、人と人がつながる機会をつくる取組が増えていきます。

一度に多くの人が集まることは難しくなりましたが、少人数で顔を合わせることで、感染症のリスクを減らすだけでなく、仲間意識が強くなるという面もあるようです。



柱②
生き活き・すこやか

「新しい形の健康づくり」

外出の機会や人とのつながりがなくなることは、私たちの健康に影響をもたらします。「これまでと同じ」ようにはできませんが、公園やスタンプラリーといった“屋外での活動や、動画やDVDを活用した活動など、新しい形の健康づくりが広がっています。



柱①
相互理解・支え合い

柱②
生き活き・すこやか

柱③
場・機会・情報

「オンラインの活用」

話し合いの場や研修会などで多くの人が集まると3密になるため、動画やテレビ会議などオンラインを活用することで、どこからでも安心して会議や研修に参加することができるようになってきています。

一方でオンラインの使用が難しい方に対しては、会場参加型の併用やパブリックビューイングの実施など、様々な形で参加できるよう工夫されています。



今後のスケジュール

第4期青葉区地域福祉保健計画は、令和3年度内の策定完了を目指し、策定委員会や各地区の推進会議等において、区計画・地区別計画の検討を進めていきます。

また、素案に対して区民の皆さんからいただいた意見も計画づくりに反映していきます。



参考資料

団体別アンケート及びグループインタビュー

○子育て支援者

●回答者 「青葉区子育て支援ネットワーク連絡会」（令和元年7月実施）

●主な意見

- ・お互いを大切にする心をもつことが大切。
- ・防犯、防災に向け、一人ひとりが関心をもち、声をかけあう顔の見える関係づくりが必要。
- ・子育て世代が、地域の一員であるという意識を持てると良い。
- ・多世代が交流できる取組が充実すると良い
- ・産休育休中に地域との関わりがつかれるようなしかけが必要。

○主任児童委員

●回答者 「青葉区主任児童委員連絡協議会」（令和元年9月実施）

●主な意見

- ・子供達中心の取組を地域で発表する機会を作ると良い。
- ・ボランティア、趣味、遊び、スポーツ等様々な活動が地域でたくさん活発に行われると良い。
- ・子どもが気軽に立ち寄れる居場所、何かをやってみようという人が誰でも集まれるサロンがあると良い。
- ・地域でのイベント(お祭りなど)に、誰でも気軽にやれる範囲内で一緒にボランティア活動ができるチャンスを増やしていきたい。
- ・顔の見える関係づくり、子育て支援、サポートをしている公的機関、民間事業者、住民、地域関係者が定期的に集まり、情報交換を行う場を設けられると良い。

○民生委員・児童委員

●回答者 「青葉区民生委員児童委員連絡協議会」（令和元年9月実施）

●主な意見

- ・気になる方を「気にかけています」というサインを発信する。まずは挨拶、声掛けから。
- ・エリアを小さくして、交流会のような会を開いて、地域の人が親しくなっていけると良い。
- ・気になる方の状態を把握する。この方達が私たちに何をしてもらいたいかなど、気になる方にアンケートを取れると良い。
- ・地域で自治会町内会や地域ケアプラザ等の連携により見守り、情報交換の場があれば良い。
- ・自治会行事(まつり、防災訓練、掃除等)に気軽に参加できるよう、お声かけができると良い。
- ・地域の福祉を、地域ぐるみで一緒に考えられると良い。

OPTA

●回答者 「青葉区PTA連絡協議会」（令和元年9月実施）

●主な意見

- ・日頃の挨拶を大事にし、コミュニケーションをとるように心がけることが必要。
- ・地域に子どもも大人も全員が積極的に参加できる行事やイベントを増やすこと。そのためには、市やその他の団体等、力を借り、企画、運営される仕組みを考えることが必要。
- ・子どもが地域活動(自治会の行事、例えば夏祭り、防災訓練、公園清掃など)に保護者と一緒に参加することが必要。
- ・学校で地域のことについて学習することが必要。
- ・地域とのつながりを持つためには、その地域のことを良く知ることから。
- ・高齢者施設や保育施設へ子ども達が訪問したり、子ども達が参加したくなるイベントの企画、コミュニティハウスや公園などで親子で活動できるイベントの企画が必要。
- ・近所の人にあいさつをする。そのために、親が率先してあいさつをする、話をする、顔見知りの人を増やすことが必要。

○障害関係団体・施設

●回答者 「当事者団体部会・障害者施設連絡会」（令和元年9月、10月実施）

「聴覚障害者協会」（令和元年11月実施）

●主な意見

- ・交流できるイベントの機会を増やし、当事者や家族が積極的に地域に出て行く意識を持って、まずは顔見知りになることが必要。
- ・障害者が地域の中で高齢者や子供も一緒に楽しめるスポーツやカルチャーの場が定期的にあると良い。
- ・障害のある人は地域との関わりがあまりない場合もあり、災害時の不安を抱えている。
- ・障害のある人の相談窓口を増やし、相談先を地域の回覧板で知らせてもらえると良い。
- ・誰もが受け取れるよう、情報発信することが必要。
- ・障害体験の普及・見えない障害が、より多くの人々に分かるようになれば良い。
- ・区内の福祉施設見学会や、区内障害福祉専門の情報紙の発行やネットでの発信が必要。
- ・学校教育の中で「知る」「見る」「体験する」という機会を作り、早い時期から自分達の身近に障害のある方々が生活していることを知ってもらえると良い。
- ・地域で障害に関すること、特に成人に関してはほとんど話題にならないため、もっと多くの人に知ってもらうことが大切で、特に子どもたちに伝えていく必要がある。
- ・子どもたちの福祉体験、福祉教育の機会が増えると良い。
- ・地区社協等、地域に障害者の意見を伝えることができる場があると良い。
- ・区役所、警察、病院等には特に手話通訳者を配置したり、職員がタブレットで遠隔操作するなど、筆談以外の方法で相談できるようになると良い。

地区別計画について

○計画の推進体制

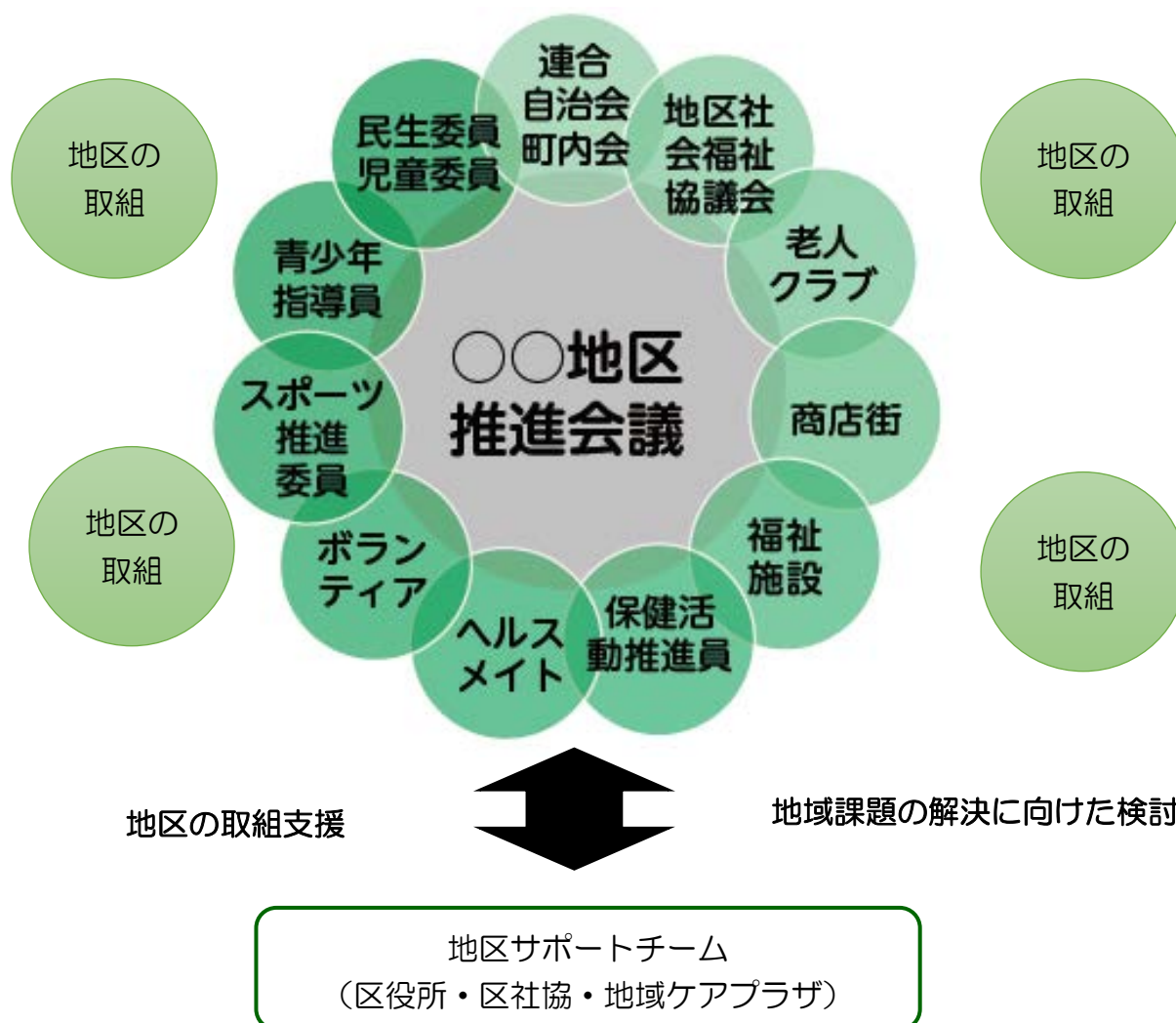
地区別計画推進会議

連合町内会、地区社会福祉協議会などの地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が主体となり、地区別計画を推進するための会議です。地区社会福祉協議会が中心となり推進している地区もあります。地域の福祉保健に関わる活動や課題の解決のために、話し合いや情報共有を行います。

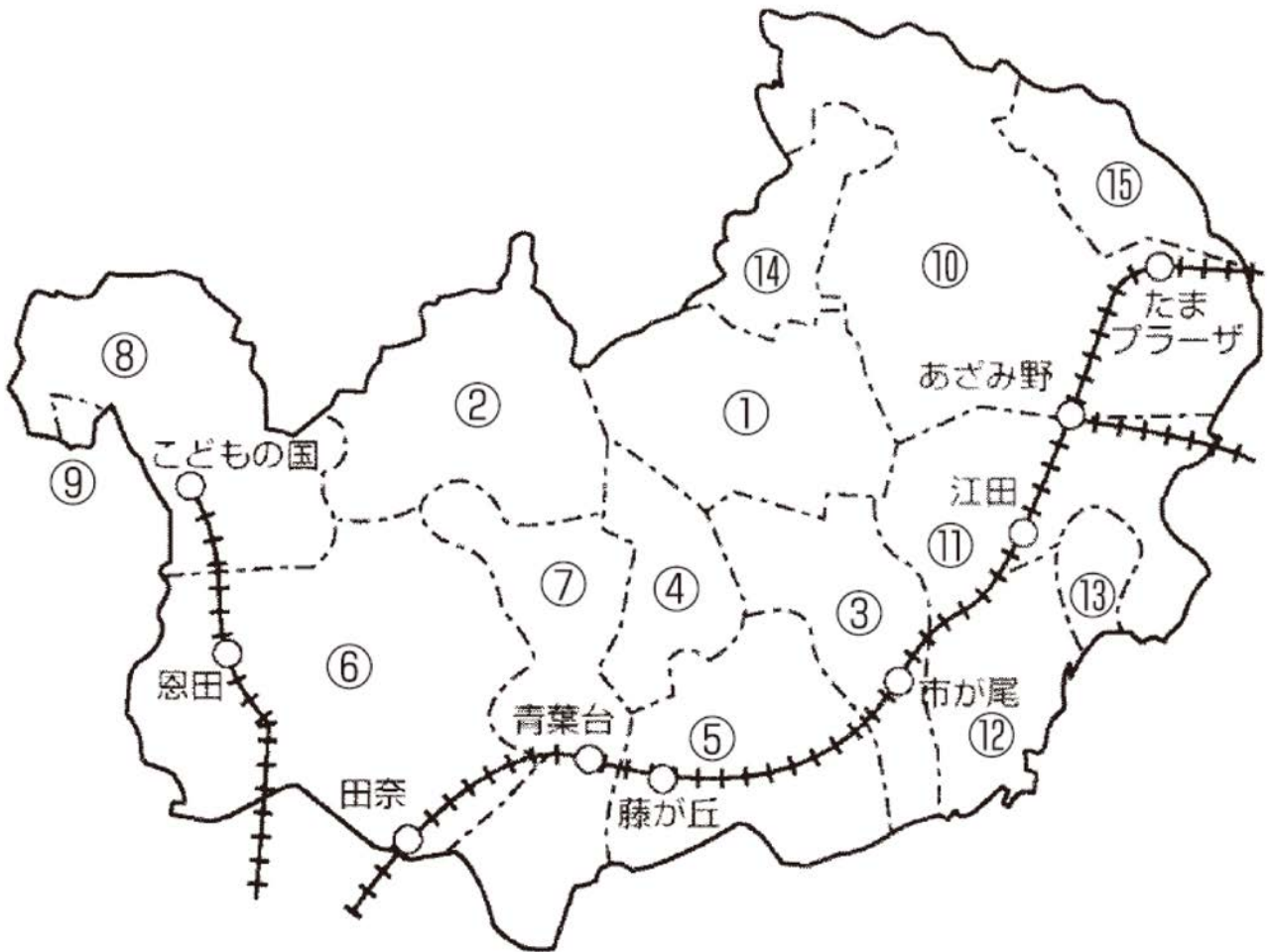
○区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザによる支援

青葉区は15地区ごとに、区役所・区社協・地域ケアプラザで「地区サポートチーム」を構成しています。地区サポートチームは、「地区サポートチーム会議」を定期的を開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や課題などを共有し、地域だけでは解決できない課題等に対し、地域のニーズに応じて地区別推進会議とともに検討し、解決に向けた支援をしています。

<地区別計画の推進体制イメージ>



○青葉区の連合自治会町内会エリア



① 中里地区

⑨ 奈良北地区

② 中里北部地区

⑩ 山内地区

③ 市ヶ尾地区

⑪ 荻田地区

④ 上谷本地区

⑫ 荻田西地区

⑤ 谷本地区

⑬ 新荻田地区

⑥ 恩田地区

⑭ すずき野地区

⑦ 青葉台地区

⑮ 美しが丘地区

⑧ 奈良地区

中里地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 学校や施設との連携をし、若い世代に地域のことを知ってもらい、さらに愛着を持ってもらいたい。
- 様々な方法で防災訓練が実施できており、防災意識の醸成とつながっている。
- まつりでは、以前は参加者だった学生がボランティアとして参加してくれた。参加者から担い手へのステップアップができてきた。
- 集える場があることで、住民同士の顔が見え理解し合える「お互い様」の形ができていて一方、自ら手を挙げられない人への支援が課題。
- 転入してきてすぐ声をかけたことで、親子が地域行事に参加してくれた。最初のきっかけが大切。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなで支えあい、“ふるさと”として愛されるまち

目標1 みんなが助け合い、協力できるコミュニティをつくろう！

目標2 地域力を高める人材を育てよう！

目標3 地域全体で高齢者を見守り、生き生きしているまち！

目標4 地域で子育てをし、安心して子どもを育てられるまち！

中里北部地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 行事を通じて担い手を発掘するとともに、どのように担い手になってもらうか。
- 地域に愛着を持ち、人とのつながりや交流をもってもらいたい。
- 声掛けやあいさつを通じた、見守りの意識があるので、子どもや大人もお互いにあいさつをしていける地域にしたい。
- 大学等との活動や情報交換等を通じて連携していけると良い。
- 地域の情報を発信し、地域のことに興味を持ってもらいたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

あらゆる世代の交流がさかんに行われ、さまざまな人の和が広がり、すべての住民が地域の一員と感ぜられるまち

目標1 高齢者が活躍できる生きがいのある地域にしよう！

目標2 若い世代を呼びこみ、地域に根づく環境をつくろう！

目標3 認知症を理解し、それぞれの立場で高齢者を見守ろう！

目標4 子どもが自分のまちをもっと愛せる地域にしよう！

市ケ尾地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域のことを次の世代に伝え、どのように受け継いでいくか。
- 防犯パトロール等を通じて、安全安心な地域にしたい。
- あいさつや声掛けを通じて、地域とつながりをもっていけたら。
- 閉じこもりがちなりタイア世代の方に、どのように地域活動に参加してもらうか。
- 地域のイベントを地域の広報紙に掲載するなど、情報発信していきたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなで地域のつながりを深め、イキイキと活動し、住み続けたいまち市ケ尾

- 目標1 活発な地域活動を活かし、もっとつながりのあるまちに！
- 目標2 異世代の交流を深め、誰もが楽しく活躍できる地域に！
- 目標3 いつ災害が起こっても、困らないまちに！
- 目標4 健康でいられるよう、食と運動ではつらつとした暮らしを！

上谷本地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- あらゆる世代にも参加できる事業、居場所の地域情報をPRし、知ってもらえると良い。
- 「行ってみよう！」と思ってもらえる活動や取組を作り上げることが大切。
- 障害理解に関する取組を始めた。今後、地域で障害児者にどのように寄り添っていけるか考えていけると良い。
- 元気なうちから地域とつながることが大切。お互いに見守り、支え合いましょう。
- 防災、減災意識を高め、災害時の体制を見直し、助け合える体制を強めよう。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「子どもからお年寄りまでいつまでも暮らし続けたいまち」

～お互いに見守り支えあうまち～

- 目標1 健康で安全・安心に住みやすいまちづくり！
- 目標2 地域のつながりで災害時に住民が助けあえる体制を強めよう！
- 目標3 異世代間の交流など、活発な地域活動を継続し、より多くの人の地域参加を目指そう！

谷本地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 誰もがつながりを持てるように、世代を超えて地域に溶け込んでもらう工夫が必要。
- 交流の機会や、見守りの輪が広がってきている。気になる情報をキャッチしたら誰かに届けることが大切。
- 自治会館がもっと活用されると良い。
- いざという時のために、あいさつなどの近所づきあいや、「大丈夫手ぬぐい」の活用などを進めていきたい。
- 障害者や認知症への理解を深める機会があると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

誰もが気軽にあいさつをかわせる仲のいいまち

目標1 地域の付き合いを一歩進めよう！

目標2 災害時に誰もが安全に避難できるようにしよう！

目標3 子どもから高齢者まで地域で見守っていこう！

恩田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域での活動を通じ世代を超えて交流し、コミュニケーションを深めたい。
- 定年後の男性や高齢者に、地域でもっと活躍してほしい。
- 掲示板やチラシのポスティング等を通じ、地域の活動をもっとPRしたい。
- 自治会、民生委員、PTAや老人クラブ等各団体のつながりをさらに深める。
- 伝統行事、郷土料理を伝承し、のどかな里山を次世代につなげていく。
- 防犯・防災対策や災害時対策を強化していくとともに、各防災拠点（5ヶ所）の連携し、災害時の助け合いを検討している。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「地域を愛する気持ち」を大切に、お互いに支えあうまち

目標1 交流の輪を広げよう！

目標2 地域を支えるボランティア等の担い手を育てよう！

目標3 高齢者・障がい者が安心して暮らせるまちをつくろう！

目標4 地域ぐるみで子育てを支援しよう！

青葉台地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 福祉まつりでは、民生委員や施設の活動について、近隣住民の方々に広く周知できる良い機会となっている。
- 地域人材の発掘のため、気軽に参加しやすくなるよう、活動の内容が見える発信方法を考えていく。
- 風水害を想定した福祉施設での防災訓練をやっていきたい。
- こどもハロウィンまつりなど、子どもたちが主役のイベントを活性化できれば良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなが活躍し、ふれあいが深まるかがやくまち

- 目標1 顔の見える地域コミュニティをつくろう！
- 目標2 地域の人材を掘り起こし、まちづくりへの参加を促そう！
- 目標3 高齢者・障がい者を地域であたたかく見守っていこう！
- 目標4 すべての子ども達がいきいきと育つ環境をつくろう！

奈良地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 他の団体とも協力して奈良地区の歴史を学べるようなウォーキングや展示を実施する。
- 移動手段の確保については、地区内の施設や地域ケアプラザとも協力して検討していく。
- 地区社協から学校に働きかけて、地域と学校が一緒に取り組めることを検討していく。
- 通学の見守りなど、高齢者が活躍できる機会がつかれると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなにやさしく活力のあるまち

- 目標1 親しみの持てる地域コミュニティをつくろう！
- 目標2 高齢者の交流を活発化させよう！
- 目標3 「地域の子ども」という視点で、子どもの育ちを応援しよう！

奈良北地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 若い世代や転入者、高齢者、外国籍の方など、つながりが薄い方々とのつながりづくりができると良い。
- 世代や対象に合わせた広報の工夫により、多くの住民へ地域情報の発信ができると良い。
- 広報やイベントの開催などによる地域活動参加への「きっかけづくり」が必要。
- 担い手同士のつながりと活動の輪を広げ、新たな担い手を確保できると良い。
- 防災・減災を見据えたつながりづくりも必要。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

みんなに優しく誇れる団地

いざという時、団結してお互いに助けあえる団地

目標1 子どもから高齢者まで、団地全体でお互い見守っていこう！

目標2 顔の見える関係を築き、団結力を深めよう！

目標3 活動者同士のつながりをさらに強めよう！

山内地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 地域行事への参加を通じて、地域の担い手を育成・発掘したい。
- 防災訓練などを通し、地域の防災意識や自助力を高めていきたい。
- 地域イベントの情報発信をし、参加者を増やして多世代交流をしていきたい。
- 地域で活躍できる場をつくり、地域とのつながりづくりを深めたい。
- 若い世代に伝統行事を継承していけると良い。
- 防犯パトロールは、顔見知りになることで安心感につながっているが、参加者が固定化しつつある。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

次世代が地域を好きになれるよう、地域のつながりを継承し「ここに住んで良かった」と思えるまち

気軽に集まれる場所ができ、みんなが喜んで活動できるまち

目標1 地域のつながりを大切にしたい安心安全のまちづくり

目標2 赤ちゃんから高齢者まで、気軽に地域活動に参加できるまちづくり

目標3 昔から続く助けあいの精神を継承していこう

荏田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 子どもから高齢者まで参加できるイベントや地域活動を実施する。
- 幅広い世代に情報が届くよう、地域の情報が一つにまとまった媒体を作成し、周知できたら良い。
- ポッチャなど、楽しみながら運動をし、地域の人々とのつながりを作る機会を増やしていければ。
- 小地域の身近なエリアで見守りができるようにしていきたい。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

「荏田っていいな」って言えるまち

～子どもから高齢者まで、地域に愛着を持ち、安心して暮らせるまち～

目標1 イベントや地域活動をとおして、住民どうしのつながりをつくろう！

目標2 子どもから高齢者までスポーツ等をとおして、健康づくりに取り組むまちにしよう！

目標3 隣近所で支えあいの輪をつくろう！

荏田西地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- もちつき大会等、地域活動に参加することで、地域に知り合いが増え、挨拶・話をする機会が増えた。
- 公園でのラジオ体操等、「小さい単位」の活動が積み重なってつながっていけると良い。
- 学校で開催されるイベントを通じて人とつながった。小中学校との連携も必要。
- 「身近な場所で活動があり」、かつ「自分たちも主役」になれると良い。
- いかに地域に関心を持ってもらうか、ということが重要。担い手と参加者が一体になれると良い。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

身近な活動が継続し、お互いが助けあう心を持てる、つながりのあるまち

目標1 地域で顔の見える関係づくりを進めよう！

目標2 子どもたちが安心していきいきと育つ環境を作ろう！

目標3 地域の活動の場を開拓していこう！

目標4 高齢者や障がい児・者が、自分らしく暮らせるまちにしよう！

新荏田地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 行事の協力者に再度声をかけられる仕組みがあると良い。
- 「安否確認タオル」を配布し、発災時の助け合いや防災の意識を高めたい。
- 「あいさつ運動」をきっかけに顔見知りになり、隣近所の状況を普段から把握できるようにしたい。
- 子どもたちが自由に参加できる、地域での取組があると良い。

（参考）【第3期計画】

〈5年後にめざしたいまちの姿〉

お互いに声をかけあい、子どもから高齢者まで、みんなを大切にするまち

目標1 子どもたちのふるさとづくりをしよう！

目標2 より多くの人が活動に楽しく参加するなかで、担い手を育てる！

目標3 向こう三軒両隣で高齢者を見守ろう！

目標4 災害時に備えた共助のネットワークをつくろう！

すすき野地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 第3期計画目標の推進を継承することとし、「福祉保健計画推進委員会」「福祉活動団体懇談会」「福祉討論会」を通じ、より地域課題の共有と解決策の検討を進めてきた。
- 「すすき野福祉保健計画 NEWS」「すすき野地区社協広報誌」の発行などにより、情報や人材不足の改善に取り組んでいる。
- 役員・担い手の負担軽減に向けた現在業務の見直し、改善・工夫を、団体毎に取り組んでいる。

（参考）【第3期計画】

〈5年後にめざしたいまちの姿〉

コミュニティとして成熟し地域価値が高く、和やかに安全で安心して住み続けられるまちとなっている

地区住民が地区づくりに協働し活動している

目標1 次世代の地域を担う推進者の輩出手段と育成の検討を進める

目標2 高齢化に伴う地区課題抽出・対応する組織作りの検討を進める

目標3 地区住民の交流活動を進める

目標4 地区全体に係わる課題とその対応策の検討を進める

美しが丘地区

【第4期計画策定に向けて推進会議等で出された主な意見】

- 各団体や地域と、「顔の見える関係づくり」ができれば良い。
- 小中学生から高齢者まで、地域活動に関わってもらいたい。
- 地域の団体や地域活動の情報を、どのように発信共有していくか。
- 子育て世代とつながりをつくり、多世代交流の場ができ、少しの工夫で家の近くで井戸端会議や交流できる場・仕掛けができると良い。
- 安否確認タスキを配布し、発災時の見守りの意識が高まっている。

（参考）【第3期計画】

<5年後にめざしたいまちの姿>

地域を大切に思う新しい仲間を増やし、地域の一人ひとりがいつまでも健康で自分らしく暮らせるまちをつくる

- 目標1 誰もが住みやすい安心安全のまちづくり！
- 目標2 欲しい情報が手に入り、いきいきと暮らせるまち！
- 目標3 地域ぐるみで子どもを育てよう！
- 目標4 高齢者・障がい者が安心して自分らしく暮らせるまち！

おわりに

この計画素案は、地区別計画推進会議、グループインタビュー、区民意識調査等でいただいた区民の皆さんからの意見と第4期青葉区地域福祉保健計画策定委員会、福祉保健推進会議での議論等に基づいてまとめました。ご参加・ご出席いただいた皆さんには厚く御礼申し上げます。

第4期青葉区地域福祉保健計画策定委員会 名簿 (敬称略・順不同)

| 氏 名 | 所属団体 |
|-----------|---------------------------|
| 山川 英子 (※) | 青葉区連合自治会長会 |
| 山本 俊夫 | 青葉区医師会 |
| 山本 昭二 | 青葉区歯科医師会 |
| 関水 康成 | 青葉区薬剤師会 |
| 徳江 傳三 | 青葉区社会福祉協議会 |
| 小嶋 優 | 青葉区民生委員児童委員協議会 |
| 三浦 尚美 | 青葉区民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会 |
| 越井 太郎 | 青葉区保健活動推進員会 |
| 相原 照世 | 青葉区老人クラブ連合会 |
| 添田 好男 | 青葉区地域自立支援協議会 |
| 荒堀 洋子 | 青葉区PTA連絡協議会 |
| 高橋 充 | 青葉区スポーツ推進委員連絡協議会 |
| 御手洗 由美子 | 青葉区青少年指導員連絡協議会 |
| 三村 徳子 | 青葉区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会 |
| 西尾 敦史 | 愛知東邦大学 教授 |

(※) 策定委員長

皆さんからの
ご意見・ご提案
お待ちしております！



青葉区
マスコットキャラクター
なしかちゃん

✂ (キリトリ線)

「第4期青葉区地域福祉保健計画」素案への
ご意見・ご提案をお書きください

◆計画の内容について

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

◆地域の皆さんで取り組みそうなこと・心がけると良いこと

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

◆その他

.....

.....

.....

.....

.....

(キリトリ線)

ご協力ありがとうございました。

ご意見募集について

素案の内容に対する皆さんのご意見やご提案をお寄せください！

◆計画の内容について

- ・「地域でこんな活動があったらいいな」というご意見やアイデア。
- ・素案の中でこの部分が気になった（関心を持った）。
- ・既に「地域のつながりづくり」に向けてこういう取組を行っている。

◆地域の皆さんで取り組みそうなこと・心がけると良いこと

例) あいさつ・声かけ・ちょっとした買い物やゴミ出し等のお手伝い 等



- ・この素案に対するご意見やご提案がありましたら、左下のハガキにご記入の上、お送りください。ハガキの他、封書、FAX、Eメール、電子申請システムからでも結構です（様式は問いませんが、お住まいの町名、年齢をお書きください）
- ・いただいたご意見等は、今後の計画策定や地域福祉保健関連施策の参考にさせていただきます。ご意見を取りまとめたものを、青葉区地域福祉保健計画策定委員会へ報告するとともに、ホームページに公表します。
- ・個人情報適切に扱い、この「ご意見・ご提案」以外には使用しません。

ご意見等は、

令和3年4月16日（金）までに

お寄せください。

素案は、青葉区ホームページでもご覧いただけます。

https://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kurashi/fukushi_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/keikaku.html

青葉区地域福祉保健計画

検索

封書、FAX、Eメール等の送付先

横浜市青葉区役所福祉保健課事業企画担当

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町 31-4

TEL:045-978-2436 FAX:045-978-2419

Eメール:ao-jigyokikaku@city.yokohama.jp

電子申請システムもご利用いただけます。

こちらのQRコードを読み込むと

電子申請システムの入力フォームが表示されます。



料金受取人払郵便



郵便はがき

225-8790

<受取人>

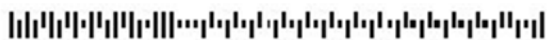
横浜市青葉区市ケ尾町 31-4

青葉区役所 福祉保健課

事業企画担当 行

✂ (キリトリ線)

(キリトリ線) ✂



※お名前の記入は不要です

お住まいの町名 : ()

年代 : a 20歳未満 b 20~39歳

c 40~64歳 d 65~74歳

e 75歳以上